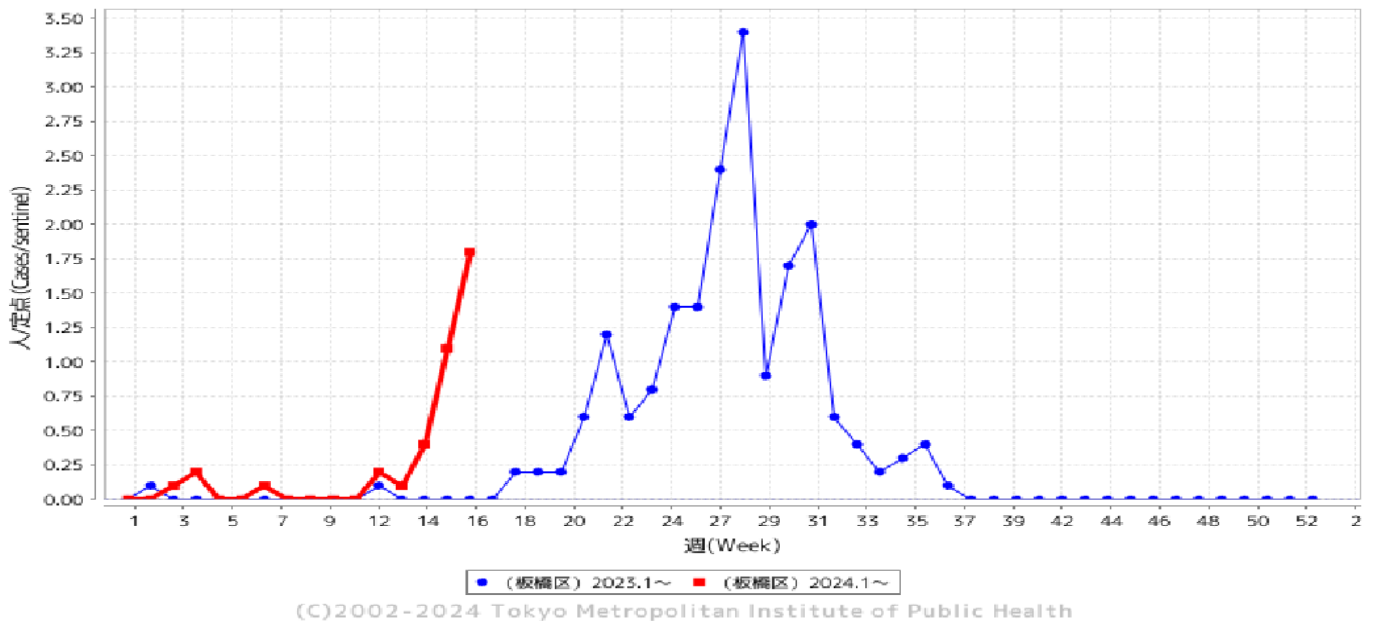


# 板橋区感染症ニュース 臨時号（保育施設向け）

2024年5月1日

RS ウイルス感染症が、例年より早く流行しています。また、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行しています。

【RS ウイルス感染症(東京都感染症情報センター 定点報告疾病集計表週報告分より)】



## 【RS ウイルス感染症とは】

RS ウイルスの感染による呼吸器の感染症です。何度も感染と発病を繰り返しますが、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされています。RSウイルスの初回感染時には、より重症化しやすいといわれています。特に生後6ヶ月以内にRSウイルスに感染した場合には、細気管支炎、肺炎など重症化する場合があります。

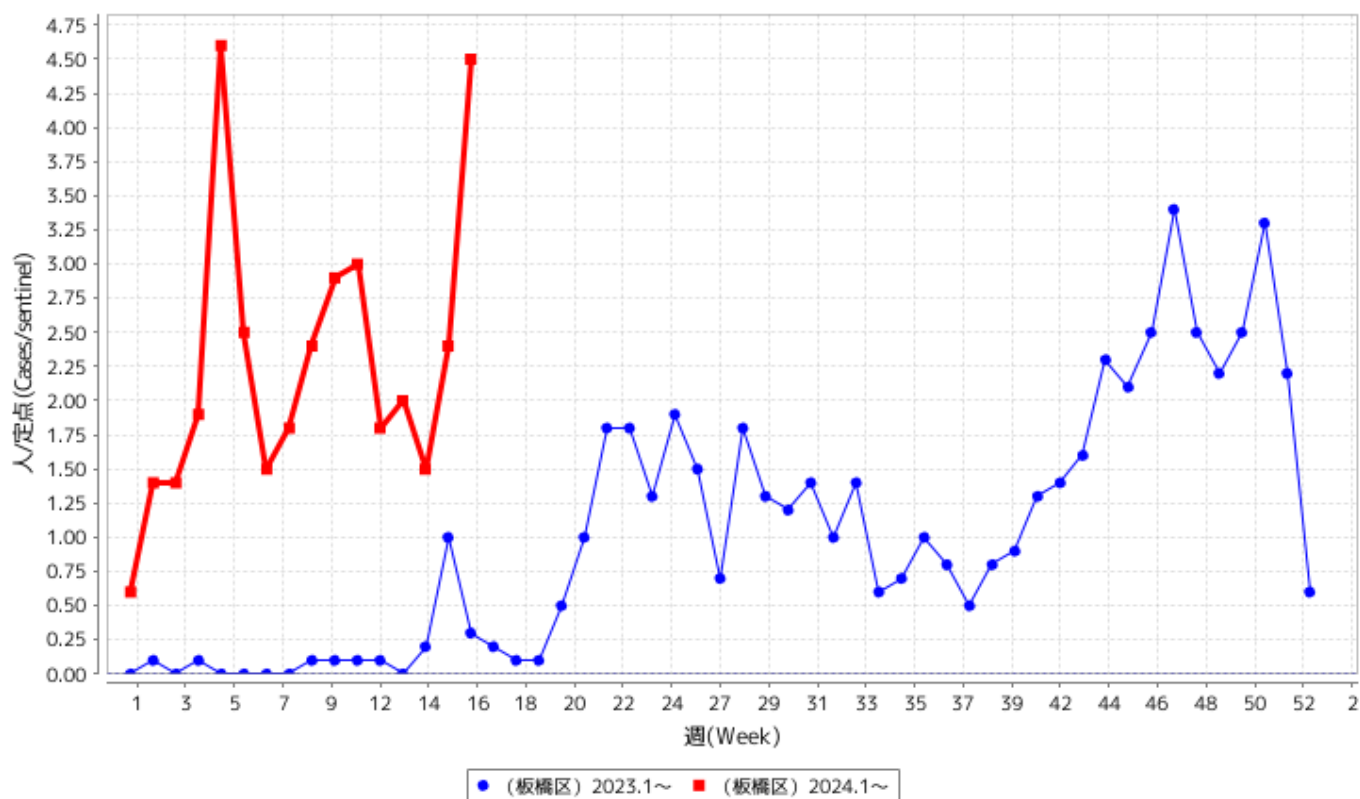
## 【潜伏期と症状・治療】

4～6日間の潜伏期間を経て発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。多くは軽症で自然軽快しますが、重くなる場合には、その後咳がひどくなる、喘鳴が出る、呼吸困難となるなどの症状が出現し、場合によっては、細気管支炎、肺炎へと進展していきます。治療は症状を和らげる対症療法となります。

## 【感染経路と対策】

感染経路は接触感染と飛沫感染です。接触感染対策としては、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤などで消毒し、流水・石鹸による手洗いが重要となります。飛沫感染対策としては、鼻汁、咳などの呼吸器症状がある場合はマスクが着用できる年齢の子どもや大人はマスクを使用することが大切です。

## 【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（東京都感染症情報センター 定点報告疾病集計表週報告分より）】



(C)2002-2024 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

### 【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは】

A 群溶血性レンサ球菌による上気道感染症です。

### 【潜伏期と症状・治療】

潜伏期は 2～5 日間です。突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛などが見られ、おう吐を伴います。また、莓舌（莓状に腫れ上がった舌）が見られることがあります。菌が産生する発赤毒素に免疫のない人は、猩紅熱と言われる全身症状を呈し、全身に赤い皮疹が現れます。合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症、リウマチ熱、急性糸球体腎炎などが見られます。抗菌薬による治療が行われます。リウマチ熱、急性糸球体腎炎などの合併症を予防するため、症状が治まってからも、決められた期間、抗菌薬を飲み続けることが大切です。

### 【感染経路と対策】

接触感染と飛沫感染です。よく触れる物や場所をアルコールや塩素系の消毒剤などの消毒、手洗いが重要となります。対策としては、呼吸器症状がある場合はマスクが着用できる年齢の子どもや大人はマスクを使用することが大切です。

(参考) 厚生労働省、国立感染症研究所ホームページ

板橋区保健所予防対策課感染症対策係